

第1回実証研究連絡会 議事概要

日時 令和5年6月7日(水)
13:30～15:00
場所 県立図書館サークル活動室

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 委員紹介(自己紹介)
- 4 事業説明等
- 5 協議・報告
- 6 その他
- 7 閉会

※発言そのままではなく、発言要旨としてまとめております。

〈議事概要〉

5 協議・報告

(1) 4市町からの状況報告について

〈委員〉

玉野市においても、部活動の地域移行は、少子化の進行と働き方改革の進展に伴って環境整備を進めていくということで、教育委員会や市議会でも確認、報告を進めているところである。

〈委員〉

まず前段階として、現在検討委員会の設置要綱を策定し、委員の方を委嘱している状態である。まだ第1回の検討会議が開けていない。具体的なところを検討委員会で決めて実証事業を行っていく。

このゴールイメージはとても大事だと思っており、本決まりではないが、このようなイメージが作れるか、ということで資料を作成している。対象活動も未定の場合は空欄でということだったが、できるだけ案として作成したかったので、検討委員会をクリアしていないが、記載をしている。学校部活動の中に陸上競技・野球・吹奏楽が今後対象の部活動になっていくかは、議論していこうと思っている。枠外に書いている自転車とボルダリングであるが、現在部活動があるわけではないため、あえて枠外に示している。この二競技を入れた理由だが、まずは玉野競輪を有している。また、王子が岳は、ボルダリングの聖地ということもあり、この活動ができてくると、町おこしとリンクしやすいのではないかと考える。2番の組織図であるが、ゴールイメージということで記載をしている。そのセンター的な機関があり、そこでコーディネートされる方がいて、人材バンクという形で指導者の登録、コーチであるなど、そういったところをマッチングしていく。場所については、やはり中学校が主になってくると考えている。フェーズ1の方では、アンケート等で書かれていたが、実際には陸上競技と吹奏楽というのはフェーズ1のところできりながら、あわせて教員・保護者・生徒へのアンケート調査も行っている。フェーズ2のところに関しては、今後必要であると考えている内容を書いている。検討委員会でしっかり議論していきたいと思っている。21ページには令和4年度末の部活動の人数、具体的人数等を書いている。令和5年度については、学校教育と連動しながら最新の数字をこれから入手して実際の案に落とししていきたいと考えている。

まだ実際に具体のところ動いていないというのが現状である。事業連絡会を通して教えていただけたらと思う。

〈委員〉

まず対象校であるが、対象中学校は5校あり、現在生徒数は603名である。対象となる活動は陸上競技、サッカー、剣道、アーチェリー、吹奏楽、ゆるスポとしている。ゆるスポについては、競技を定めているものではなく、いろいろな運動に関わり本当に運動が苦手な方でも興味を持って運動に参加していただけるようなスポーツ教室のような

ものを計画をしている。

地域クラブについては、総合地域スポーツクラブ、スポーツ少年団や環太平洋大学ブラスバンドを予定している。

関係団体・組織図については、地域移行課、小中一貫教育課、スポーツ振興課等々と連携して事業を進めていく予定となっている。地域移行の一番の課題となっているのは、生徒をどのように会場の方へ輸送するかということである。備前市では各団体に所属している子どもの数が大変少なくなっており、活動の会場は、中学校や、その競技が有する会場内で行う予定にはなっているが、そこまでの子どもの輸送については、どのように実施していくかということが、課題になっている。

地域移行までの工程についてであるが、フェーズ1では、実際に関係団体と関係機関の方との連携協力を実施しており、地域移行の検討会議等も行ってきた。フェーズ2は、今年度は会場の確保、生徒の移動手段の確保を課題として挙げている。また、今後は教員と保護者、生徒への説明を実施する予定である。休日の部活移動だけでなく、一部平日のクラブ活動も実施できたらということ、今考えている。

〈委員〉

早島中学校には対象部活動が学校部活動を男女に分けて考えると11部活あるが、美術部に関しては、平日のみの活動となっており、土日を含めて活動をしている10部活をここに載せている。対象が休日に活動する全ての部活動を全て載せている。この全てを地域移行して運営ができるような体制を整備できるように今年度から取り組む予定としている。

活動場所に関しては、早島町はコンパクトシティということで、いろんな活動場所に気軽に移動できるため、様々な施設を使いながら部活動のスポーツクラブの運営を考えている。

運営形態であるが、この4年間、形態に関してはまだまだ検討中である。早島町の部活動指導員は平成29年から7年目となるが、入った当初はなかなか地域のその指導員を受け入れるような体制がなかった。しかし、7年となってくると現在の顧問の先生の指導歴より地域の指導員の方が中学校での経験年数も多くなってくるケースもあり、早島中学校の部活動でその地域の指導員への信頼が年々厚くなっている状況である。運営母体を市町村で運営する形で考えていくのか、それとも民間の方を考えていくのかに関して、今年度しっかりと考えていきたい。地域の将来を含めてしっかりとした運営形態を作っていくような体制整備を、今年度の重点事項として取り組む予定としている。

フェーズ2に移り、今年度はどのように移行していくのかを協議会を設置して考えたり、団体等が見つかり、上手に会場を整備することでできたら、兼職兼業のことや施設開放のことなど、それぞれのことをしっかりと考えて、目標は経費を含めて、来年度中に地域移行ができたところを目指して頑張っていこうと思っている。

〈委員〉

和気町には中学校が2校ある。和気中学校と佐伯中学校であるが、佐伯中学校は生徒総数が40名余りしかいないので、資料にある262名のうちの8割は和気中学校の生

徒になる。中学校2校にそれぞれ緑と青で示した部活動が現在あるがこちらを今、総合型地域スポーツクラブなどを受け皿として地域に移行していくということを検討している。これまでの経緯については、フェーズ1にもいくつか書いているが、部活動の地域移行の話が出たときから、和気町では、部活動の数はあるが、単独で大会に参加できる人数を満たしている部の方が少なく、野球部にいたっては2校で3人しかいない。周りの自治体と組んでもチームを組めるかどうか。バレーボールにおいても6人で、1人でも怪我をすると出られなくなるという状況である。顧問の先生を中心に頑張っているが、これでは持続可能ではない。佐伯中学校については、ソフトテニスと野球が運動部である。スポーツ少年団では陸上競技やバレーボールがあったりと、多様なスポーツに触れる環境があるが、中学校に行ったら運動するのであれば、ソフトテニスと野球しかないという状況で、様々なスポーツあるいは文化活動に触れる環境を作っていきたいと思っているところである。昨年中に検討委員会を4回開催し、関係団体機関との連携というところで、指導者の確保がなかなか難しいというところから中吹連の小原会長にも相談させてもらったり、あるいは広報紙、議会などでも、この地域移行についての訴えをして理解を得ている。また、町長部局等へは地域移行について、「学校や、教育委員会だけではなく、町を挙げてのスポーツ文化環境づくりです」というところをしっかりと訴えて、例えばスクールバスの休日での活用であるとか、あるいは移住者に対する指導者としての登録の働きかけなどを行っていける体制を整えてきた。今年度は、この事業を受託できたので対象部活動を選び、そして学校とクラブ活動との連携を深めていく顔の見える関係を作っていく必要があると思い、昨年度末から動いている。昨年度末に一度、クラブの指導者と、中学校の校長先生、それから部活動の顧問の先生と別の協議の場をそれぞれソフトテニス、野球、陸上競技、剣道でもったが、そのうち半分以上の方の先生が転勤をしたので、4月にまたやり直しの会をしたところである。私も中学校の教員で、部活動に熱心に取り組んでいた者である。外部の方に入ってもらうことは、メリットもあるけれどもデメリットもあるということで、どういった指導観を持っていたり、どういった子どもを育てたいのかという願いを共有する場が必要だと思い、こういった会を年度当初にしている。

今年度については、ソフトテニス、陸上競技、卓球については、部活動指導員という形でそれぞれの中学校にクラブから指導者を派遣することで、学校とクラブとの連携を図っていく。先ほど形の話があったが、そういった形で、まずは連携を図っていき、令和7年度当初までの2年間で今の中1が中3になるタイミングで、休日の部活動については地域に完全移行をしたいと考えている。また、クラブに今ない部活動で吹奏楽（歌唱）と書いている。既にあるものについては、そこを受け皿としてやっていけばいいが、ないものについては、この1年間で受け皿を作り、指導者を何とか確保していつでも行けるような形をとっていきたいと思っている。町教委としては、下から上に矢印を受けているが、クラブの理事長をコーディネーターとして委嘱し、行政、学校、クラブとの連携を密にすることとしている。

また、剣道については、少年団を受け皿に考えているので、そことクラブとの連携もしていきたいと考えている。また、指導員への謝金補助、また参加費の補助について、指導員の謝金は国の事業で行われるが、生徒に気軽にクラブに参加してもらいたいというこ

とから、今年度については町費で参加費を負担し、たくさんの生徒にまずはクラブの活動に足を運んでもらい、「こんな活動を行っている」「今部活動ではソフトテニスを行っているが、陸上競技を行っていいよ、バドミントン行っていいよ」という形を作って周知を図りながら、令和7年度からの移行に結びつけていきたいと思っている。

資料に載せているのは、昨年度、今年度から令和7年度末までのグランドデザインで、一部ここに書いてあるものと変わっているところがあるが、3年間である。全ての中学校の部活動が地域に移行できるように進めてまいりたいと思っている。

〈委員〉

いろいろと議論する場所があるが、そこで必ず問題になるのがお金の面である。指導者の謝金、運営するための消耗品・備品の購入に関してそれぞれの自治体ではどのように予算を提出される予定なのかを聞かせてほしい。

〈委員〉

本年度は、この委託事業で賄うが、次年度以降については、この実証事業を受けてからの検討であり、まだこれからである。

〈委員〉

同様に、今年度については委託事業の方で賄う予定にしており、来年度以降は未定である。今年度の委託事業の様子を見て予算を取りたい。

〈委員〉

基本的に今このお金が充てられるなというもので思い浮かぶのは、学校教育課で予算付けをされている部活動指導員の人件費、将来的にそれだけで賄えるというものではないが、またそれ以外にどのように予算を引っ張ってくるのか、あるいはその財源を見つけるかについては、まだイメージがないというのが現状である。少し細かい話になるが、部活動の地域移行の中で、早島町では唯一の文化部の吹奏楽であるが、吹奏楽については、まだ可能性というレベルではあるが、地域で活動されている一般社会人バンドがある。これまで練習拠点にしていた施設から出なければいけなくなったという事情を抱えておられ、次の当面の活動場所が見つからない状態ということを知っていて、そこに相談・声がけをした。もし早島町で当面の練習場所あるいは楽器置き場など提供することができれば、まず休日から、早島中学校吹奏楽部と一緒に活動してもらえないかと考えている。お金以外のインセンティブを提示してと考えている。ただ水面下での協議中ではあるが、今年度中に生徒たちとその一般社会人との顔合わせも含めて、練習を始めてみてはというようなところまでは考えている。そこに吹奏楽部についている地域の部活動指導員の方が入っていただいているというようなことで、まずお金のかからないやり方でどこまで実現できるかというようなことも探っているところである。

〈委員〉

指導者の謝金については、今年度は国のお金を使おうと思っている。これまでもスポ

一ツ少年団、それからスポーツクラブともに受益者負担で、参加費であるとか、会費を集めてそこから消耗品などお金を使っていた。指導者というのが適切かどうかわからないが、大人が子どもに教えるという形ではなく、大人と子供と一緒にその場で活動するという形にすれば、謝金というよりもみんなで参加費を出し合って、体育館を借りるとか、あるいは壊れたものを新しいものにするという形で、今もやっている種目があり、指導者というものにとらわれないような形を目指したいと考えている。

〈委員〉

人・金問題にどうしても帰着してしまう。国や県からのお金がついている間、それで当座をしのぐという形にどうしても走りがちになるが、金の切れ目が縁の切れ目になってしまう。大きなビジネスモデルみたいなものを描く必要はあるだろうと思う。和気町が言われたように「指導をしてくださる」あるいは子どもの様子を見守ってちゃんと見守ってそばで見守ってくださる方に必ず報酬を払わなければいけないのかということも、一度実験的に疑ってみるということも必要なのかもしれない。ただ、全員がボランティアでいいということになるとある意味、学校の先生方に負担をかけたものが、地域の方々に負担をかけ直しているだけで、あまり問題を解決されていないようなこともあり得るので、お金集めも含め検討しないといけない。ただ、スポーツ庁の事例集にも載っている、赤磐市立磐梨中学校も今年度、資金集めで芳しくない状況であり、指導者への謝金も今はストップしていると聞いている。学校の校長先生が地元の会社に営業で回ってお金くださいというのは非常に難しい。お金の工面などは、もしかすると経済界の方々の方が得意かもしれない。そうすると協議会に、学校の先生方と地域のスポーツの関係者だけが集まるのではなく、経済界の人も入ってもらい商工会あるいは青年会議所などの人たちも仲間に入れてお金集めを手伝ってもらおう。あるいはお金を生む方法はないかということを考えてもらうようなことも場合によっては必要になる。

〈委員〉

これまでの議論の中でもう出てきた情報と重複するかもしれないが、整理をしていただきたい。平成17年に総合型地域スポーツクラブ研究会について、当時の状況を調べることがあった。当時、国のホームページの中では、総合型地域スポーツクラブが国の最終の施策だという位置付けで予算もついてお金も出ていたようであるが、結局うまくいっているのは県内で1つか2つの総合型という状況であった。結局今頓挫しているといったら失礼かもしれないが、なかなか指導者の問題、会場の問題、子どもたちの問題等いろいろな問題があり、持続的活動ができるところが、岡山県に限らず全国的に非常に厳しい状況だということを別の会で聞くことがあった。それで今回4つの市町の取り組みの中で、総合型地域スポーツクラブという言葉がいくつか出てきたように思うが、これはいわゆるその当時からある、あるいは今までにその地域にあった総合型地域スポーツクラブなのか、それとも新たに土台から作り上げるということなのか。

〈委員〉

岡山県の総合型地域スポーツクラブの連絡協議会の委員もしているのですが、ざっと申し上げれば、玉野市、備前市の総合型は全国的に先進事例かというところではないが、長い間ずっと頑張っている。早島町はこれから作るということで今動かれている。もう既に連携会議にクラブの関係者が入って進められている。和気町にいたっては総合型の熱量がすごく、受け皿になるクラブを作りますということを積極的に発言される方も多くいらっしゃる。頓挫しているというよりはしっかり継続してやり続けているクラブと全く生まれてない地域と、格差が広がっているという状況である。全国的に見ても頭打ちになっているところもある。しかもそれに輪をかけて登録制度を日本スポーツ協会が作ってしまい、登録しないと総合型にしないとやっているのでも、実数をカウントすると減ってしまった。なかなか厳しい状況であるが、言われるとおりの総合型地域スポーツクラブが国の政策どおりに全国にもれなくできていたら、多分この地域移行は何の問題もなく実施できていたはずだ。実は総合型地域スポーツクラブをちゃんと地域に作っていき直すという作業は、この話とセットになる。

冒頭各団体からどういう関わり方やサポートができそうかというようなことをイメージしながら聞いていただきたいというように申し上げたが、今この場で公式見解ではなく、ジャストアイデアで構わないので、どういうバックアップができそうかご意見がいただきたい。

〈委員〉

スポーツ少年団と聞いて、小学生の団体だというように思われている方はいる。スポーツ少年団は、実は登録規定はなく、高校生以上ももちろん登録している。今スポ少の会議の方でも多く話が挙がっているのが、スポ少を一つの受け皿に、小学生というイメージを持たれているが、卒団という言葉ではなく、そのまま中学生に上がっても引き続き同じ団で登録をする。合わせて高校になってもというような一つの団で18歳まで行くというようなラインを作り直そうという動きがある。そういった意味でもスポーツ少年団が一つの受け皿として各市町村、今4市町出ているが、おそらくどこの市町にもあり、いろいろな活動しているので、そこからまた競技種目を増やすことも可能であり、そういうところではスポ少も一つの受け皿になっていけるのかなというように考えている。もう一つ、指導者の確保という話があったが、「おかやまスポーツナビ」というチラシを岡山県スポーツ協会から配布している。スポーツ情報サイトポータルサイトである。こちらのサイトの中で団体の登録、指導者の登録、その他イベントの登録、施設の登録というのがあり、「おかやまスポーツナビ」をリニューアルして新しく指導者マッチングというものを特化したサイトとして、昨年度に改修して今年度も運用している。指導者側は指導したい競技の団体を探すことができ、団体側は該当競技の指導者を探そうことができるというもので、このサイト一つでマッチングができる。現在登録者数や登録団体数を増やしているところではあり、引き続き登録を増やしてこのサイトからマッチングを増やしていけるような形で思っている。ぜひご利用いただけたらと思っている。

〈委員〉

スポーツ少年団は改革プランが昨年度出ており、今年度、スポーツ少年団という名称そのものも変更し、ジュニアユースクラブとする方向でアクションプランを立てている。どうしても少年と聞くと、小学生をイメージしてしまうことから、日本スポーツ少年団としては、この地域移行の受け皿として体制をもう1回リニューアルするという意志の表れかと思う。実際は、今中学生も入れるからどんどん来ていいよという状況かというのと、これ以上みんなボランティアでやっているから回らないとか、中学生を教えるのはちょっとハードル高いなというようなことは現実にはある。おかやまスポーツナビには今何人ぐらいの指導者の方が登録されているのか。

〈委員〉

元々このサイトがマッチングに特化したサイトではなく、昨年度リニューアルをしてこのデザインに書き換えた。今の登録団体の方は、30～40団体ぐらいである。指導者は増えてきて、20名ぐらいにはなっている。チラシを配り始めたのも、今年の2月ぐらいである。

〈委員〉

県のスポーツ協会として把握している県内の全種目の全指導者のリストは持っているのか。

〈委員〉

サッカーとバスケットボールの資格以外はうちの管理システムで確認が取れる。何人いるかということがわかる。サッカーとバスケットボールは競技種目資格が特殊で、競技団体に確認を取ってもらわないといけない。

〈委員〉

おそらく無数にいるのだと思うが、その人たちは自分で登録をしないと登録できないのか。自動的に登録することはできないのか。

〈委員〉

あくまでも資格を持つことに関しての登録のシステムと、確認ができるシステムとご自身でマッチングしたいという意思で、こちらに登録をされるのは別になっているため、その周知をかけているところではある。いずれにしても、岡山県内にどれだけの指導者がいる、どういう資格を持っている人がいるということはわかるし、その方々がこういう資格持っていますと登録をしてくれば、このサイトで見ることができる。

〈委員〉

人材バンクのサイトの話だったが、そのサイトは業者に委託されて作られたのか。もしその玉野市版を作るとなると、どれぐらいの予算が必要なのか。持続可能にしていくには、地域の人材の掘り起こしが必要なので、サイトでマッチングしても移動費はどう

なるのかという問題が当然出てくるので、できたら、玉野市版を作成したい。業者に委託するのか自分たちで開発するのか。どのように開発されたかを教えていただきたい。

〈委員〉

要は団体を登録するページ、指導者を登録するページ、施設を登録するページ、いろいろな項目がある。それを全てオープンにしている。今までも何度か改修して今の形になっている。昨年度改修した予算としては75万円使ってデザインと指導者登録の関連の部分は改修をかけている。元々は施設を紹介するスポーツ情報を探すというもので始まった簡単な作りなので、解説費用はそこまでかかっているとは思わない。これは、県のスポーツ振興課とあわせて委託事業として管理しているものになる。使い勝手としては非常にいいものになっており、項目チェック欄に入ればそのチェック欄で検索をかけられ、団体側はその指導者本人の連絡先に連絡ができ、また、交通費旅費の調整や謝金の調整も、随時連絡を取ることできる。

〈委員〉

業者が作成したということか。

〈委員〉

そうである。業者をお願いをして、チラシのデザインやホームページも作成してもらっている。中身をこう変えたい、こう持っていきたいというところを相談させていただいて、提案もいただきながら予算と相談しながら、進めている。

〈委員〉

こういうマッチングができるようなサイトは常に動き続けていないと存在する意味がない。用意したら動くかということそういうものではない。なので、この市町のサイズ感で、アプリやウェブサイトを使わないといけないかというのは冷静に考えた方がいい。どちらの方が人が動くかという観点で考えるべき。1回作るとウェブ上に残り続けてしまうので、例えば県の登録者数が20人から一向に動かないと、ずっと岡山県のこの人材バンクは20人しかいないのかと見られ続ける。ちょっと恥ずかしいことになるので、そこは頑張らないといけないところだ。県のホームページは、地域検索もできるのでこれを利用すればいいという話だとは思っている。玉野市だけのサイトを作ると場合によっては、玉野市がものすごい人を呼び込んで、どんどん県の人材使ってその周辺の自治体は一向に一人もマッチングしないということが起こる可能性もある。それは奪い合いになるので、あまり気持ちのいい話ではない。このサイトの中でも岡山県だったらどこでも行きますと書いている指導者の方もいる。

〈委員〉

中国5県の中学校体育連盟の会議、全国の中学校体育連盟の会議があり、その中で出た公的なものと情報交換的なものも含めてであるが、令和8年度中国ブロックで全中大会が開催される予定である。それ以降の大会をどのような形で行うのか、つまり地域ス

ポーツクラブの参加について、このまま継続するのか、あるいはいわゆる交流大会のようなものを作るのかという検討を行っている。全競技で必要ないのではないかなどいろいろな議論があるが、中体連自体その先が見えない状況で、ただ競技力だけをうたってしまうと、クラブチームの全国大会になってしまう可能性がある。日本中で中体連が実施する大会としてふさわしいのかどうなのかということも議論にはなっている。それからもう一つは、拠点校方式に関連するが、今回市町ということで取り組まれているが、中国地区の会議の中で本当に困っているのが、県あるいは市町村の境が近いところで拠点校方式、あるいは合同部活動でやりたいが、システム上やその自治体の確認をすることができないというような学校があるということを知った。同一県内であればまだどうにかなるのかと思うが、県境を越えるとか、あるいはもっと言うと近畿と中国のブロックとなると難しい。私どもも全県の方で情報としてどんどん流していきたいと思う。

〈委員〉

実際にもう市町村境、県境を越えて隣の自治体のクラブに入って活動している人もたくさんいるので、自治体の境界線に行政側がこだわり続けてしまうと、実態と合わない現実がある。

〈委員〉

吹奏楽部の関係では、去年よりコンクールの出場資格が緩和された。合同での出場が可能となり、小編成だけの出場であったのが、大きい大会の方も出場できるということになった。ただ中国までであり、全国には推薦できない。実際にもう合同で出場する学校も聞いている。県内の中学校吹奏楽連盟は人数が減った学校と連絡を取り、校長含めて話をし、加盟する・しないをはっきりさせて、126校から120校になった。これで今年度の中学校156校中の120校が加盟ということで活動をしている。今後も全日本から中国から県に下りてきて、いろいろ改革はされていくと思う。総社市はもう合同吹奏楽も始まり、陸上の方も講師を招聘して活動している。また、予算もつけて、バスでの送り迎えも行っている。生徒が動きやすいように、生徒のためにやるという市長の思いである。

〈委員〉

吹奏楽については、スポーツの公式の試合とは違っていろいろ発表の場もあると思うが、いわゆる地域のブラスバンドだったり吹奏楽団みたいなものが出ることができるコンクールのような、いわゆる試合に当たるものは、岡山県内でどれぐらいあるのか。

〈委員〉

コンクールは夏のコンクールと、12月にアンサンブルコンテストがある。6月にある演奏会は中学校吹奏楽部が主催するのは自由で、合唱の生徒が入ったりして、地域ごとに集まって出ることもあり、合同もあるし、何でも許可をしている状況である。

〈委員〉

学校単位で吹奏楽をやろうと思ったら、126校中120校になってしまうが、スム

ーズに地域移行できた結果、地域の楽団の数がどんどん増え、結果よかったということになると思うので、そういう意味で吹奏楽部をどうするかという問題ではなく、地域の音楽文化吹奏楽団をどれだけ増やしていけるかというようなことを課題だと捉えれば、ポジティブな仕事になるのかなと考える。もうこれはスポーツも同じことである。

(2) 地域移行支援アドバイザーについて

〈事務局説明〉

質問等特になし

6 その他

〈委員〉

大会の参加に関して、県北のある自治体で、県南で大会があると、今まで学校単位で出ていたときは、バスを借り上げて移動ができていて、それを公費で払っていた。ところがクラブとして出ることになって、交通費はみんなで頭割りで払わないといけなくなったという事態が既に起こっているようである。大会に関わる交通費の問題まで頭が回ってなかったようで、確かに民間の地域クラブのバス代に教育委員会が持っている予算を活用するということは制度的にはできない。小さいことであるが結構重要な問題かと思う。参加クラブがどんどん増えてくると、いろいろな課題も出てくる。しばらくはそういう状況が続くだろう。

7 閉 会